

## お詫びと訂正

このたびは、日立アドバンスサーバ HA8000/RS440 シリーズ用オプションのRMMボードをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

『RMMボード 取扱説明書』に訂正箇所があります。謹んでお詫び申し上げます。

### ■RMMボード 取扱説明書

- ・ 「3. Web コンソールの使用方法」「Web コンソールの機能」「Web コンソールの設定項目」「Configuration」タブ」「Network」画面」(p22)

誤			
	. . . .		
	#	項目名	説明
	⑤	IP Address	IP アドレスを設定します。
	⑥	Subnet Mask	サブネットマスクを設定します。
	⑦	Default Gateway	デフォルトゲートウェイを設定します。
	⑧	Primary DNS Server	プライマリ DNS サーバーの IP アドレスを設定します。
	⑨	Secondary DNS Server	セカンダリ DNS サーバーの IP アドレスを設定します。
正			
	. . . .		
	#	項目名	説明
	⑤	IP Address <b>*2</b>	IP アドレスを設定します。
	⑥	Subnet Mask <b>*2</b>	サブネットマスクを設定します。
	⑦	Default Gateway <b>*2</b>	デフォルトゲートウェイを設定します。
	⑧	Primary DNS Server <b>*3</b>	プライマリ DNS サーバーの IP アドレスを設定します。
	⑨	Secondary DNS Server <b>*3</b>	セカンダリ DNS サーバーの IP アドレスを設定します。
			<p><b>*2 本機能はサポートしていないため、設定を行わないでください。設定を行う場合は、BIOS 操作(セットアップメニュー上の「Server Management」タブ「BMC LAN Configuration」項目下の操作)での実施をお願い致します。</b></p> <p><b>*3 入力形式は xxx.xxx.xxx.xxx です。各セグメントの入力範囲は 0-255 ですが、第一セグメントの xxx には 0 を入力できません。</b></p> <p>(※ 注釈*2 および*3 を追加)</p>



- ・ 「3. Web コンソールの使用方法」「Web コンソールの機能」「Web コンソールの設定項目」「Configuration」タブ」「Users」画面」(p23)

誤		
. . .		
#	項目名	説明
⑥	[Add User] ボタン	「Add User」画面を表示します。 ユーザーアカウントが表示されていない行を選択するとボタンが有効になります。 → 「「Add User」画面」 P.24
⑦	[Modify User] ボタン	「Modify User」画面を表示します。 ユーザーアカウントが表示されている行を選択するとボタンが有効になります。 → 「「Modify User」画面」 P.25
⑧	[Delete User] ボタン	選択したユーザーアカウントを削除します。
正		
. . .		
#	項目名	説明
⑥	[Add User] ボタン *1	「Add User」画面を表示します。 ユーザーアカウントが表示されていない行を選択するとボタンが有効になります。 → 「「Add User」画面」 P.24
⑦	[Modify User] ボタン *1	「Modify User」画面を表示します。 ユーザーアカウントが表示されている行を選択するとボタンが有効になります。 → 「「Modify User」画面」 P.25
⑧	[Delete User] ボタン *1	選択したユーザーアカウントを削除します。
<p><b>*1 BIOS セットアップの「Server Management」タブ「BMC LAN Configuration」項目「User configuration」項目下からも、UserID 1～5 のアカウントを設定することができます。</b></p> <p>(※ 注釈*1 を追加)</p>		

## 『Java Runtime Environmentに関する注意事項』

このたびは、RMM ボード (GQ-CW7440xx) をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本製品を使用するにあたり、システムコンソール端末に Java Runtime Environment (以下、JRE) を導入する際の注意事項について以下に記載します。

システムコンソール端末に JRE 7 update25 (1.7.0\_25) ~ update45 (1.7.0\_45) のいずれかを導入し JRE の有効期限を過ぎている場合、または JRE 7 update51 (1.7.0\_51) 以降のバージョンを導入する場合、リモートコンソールの起動時に**警告ダイアログが表示され、アプリケーションが起動できない場合があります**。これは JRE のバージョンアップに伴い、セキュリティポリシーが変更されたことにより発生するものです。

上記事象を回避するため、以下のいずれかの回避方法により運用いただけますよう、お願いいたします。

### 回避方法 1

JRE7 update25 より前のバージョンを導入する場合は、リモートコンソールの起動が可能です。JRE 7 update25 以降のバージョンを導入している場合は、現在導入されているバージョンをアンインストールし、JRE 7 update25 より前のバージョンを導入してください。

### 回避方法 2

JRE7 update51 以降のバージョンを導入し、下記設定を行ってください。

- (1) Windows メニューまたはコントロールパネルから「Java コントロール・パネル」を起動してください。
- (2) 「セキュリティ」タブの「サイト・リストの編集(S)」を押下してください。
- (3) 「例外サイト・リスト」のウィンドウが表示されるため、「追加(A)」を押下し、対象のマネジメントインタフェースの URL (\*1)を入力した後、「OK」を押下してください。
- (4) 「Java コントロール・パネル」のウィンドウ内の「例外サイト・リスト」の項目に、(3)で入力した URL が表示されていることを確認し、「OK」を押下してください。

上記設定を行った場合でも、リモートコンソールの起動時にセキュリティ警告が表示されます。セキュリティ警告が表示された状態で「実行(R)」を押下してください (\*2)。

\*1 URL は SSL/TLS 通信の使用有無に係わらず” https://~” で入力してください  
(例) https://192.168.0.2

\*2 「リスクを受け入れて、このアプリケーションを実行します。(I)」のチェックボックスが表示される場合は、同項目にチェックをいれてください

以上により、リモートコンソールを正常に使用することができます。